

ケアワーカーのスキルアップとは何か？

Practice for the improvement of the care workers skills

渡辺修宏

WATANABE Nobuhiro

水戸総合福祉専門学校

Mito Welfare College

Key words: care worker、 care skill、 grouphome、

目的

ケアワーカー（以下、CW）自身はもちろん、CWが所属する機関の運営者等は、よりよいケア実践のために、CWのスキルアップを求める。しかし、そこで考えられるスキルが、CWのどのような場面におけるどのような行動を指すのか、定かでない場合が少なくない。そこで本研究は、CWを教育する立場にあるコンサルティと、直接CWとかかわらない外部者のコンサルタント（以下CT）が、CWのスキルを具体的な行動レベルに翻訳し、その向上を目的としたアプローチについて検討した。

方法

コンサルティは、認知症対応型共同生活介護事業所に所属するユニットリーダー（以下UL）であり、CTは筆者であった。ULは、グループホームに所属するCW5名に対して「CWのケアのスキルを高めたい。そのためにその都度、指示をしたり、説明をすると『はい』『わかりました』と言ってくれるが、なかなか実際がともなわずCWのスキルがあがっていない」と評価していた。そこで、ULのいう「ケアのスキル」とは一体何か、ULとCTが話し合っ、CWの行動、およびその行動の確認方法（記録方法）、そしてその行動の遂行率を高める方法について議論した。（表1）

表1 CWのスキルの具体化

CWのスキル	内容
具体的行動	申し送りノートに対する「申し送り記述行動」
行動の評価法	申し送り記述内容に対する評価（ULとCTで評価）
介入方法	望ましい行動の確認後に、CWへ賞賛、またはシール貼付。

夜勤明け時にCWがノートに記述する申し送りの内容において、(1)一般化していない新たな業務内容であり、(2)CWの具体的な業務行動である記述を、「申し送り記述行動」とした。そして、申し送り記述内容の根拠が書かれていれば「望ましい」として「1」を、記述がなければ「望ましくない」として「0」とカウントし、夜勤明けごとの遂行率を算出した。なお、1ないし0の判断は、ULと、CTがそれぞれ独立して評価した。観察者間一致率は100%であった。スキルアップにむけた介入方法は、望ましい申し送り記述行動が生じた場合に

ULからの社会的賞賛（介入1）、または「たいへんよくできました」シールの貼付（介入2）の実施であった。介入後、CW5名に対し、求められるスキルと、自身のスキル遂行率についての感想を求めた。

結果

CW5名のうち4名において、ベースライン期から介入後に、申し送り記述行動の遂行率が高まったことがわかった。また、5名中3名のCWにおいて、介入1の「社会的賞賛」より介入2の「シール貼付」のほうが、申し送り記述行動の遂行率を高めたことがわかった(図1)。介入によって遂行率が高まった4名から「ULに褒められたからがんばった」「シールを貼ってもらえると嬉しかった」という感想があがった。残り1名のCWからは、「どのように記録をかけばいいかわからない」という悩みと「(私は)一生懸命努力して、スキルを高めている」という意見が表出された。

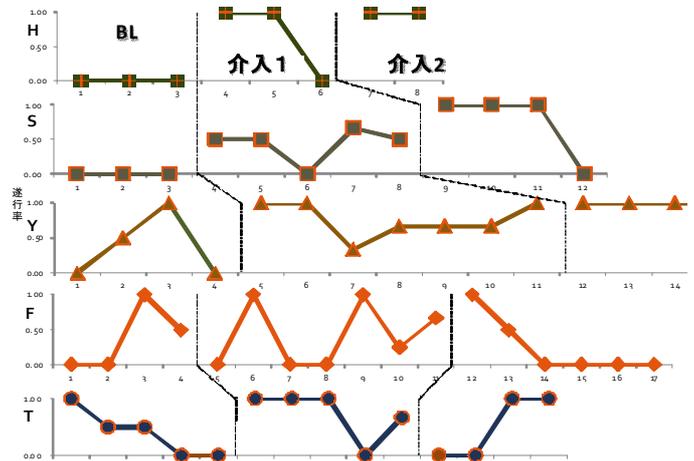


図1 CWの申し送り記述行動の遂行率

考察

ULは、上で述べた結果に対し、「CWのスキルが向上しつつある」と評価した。しかし、1名のCWに対しては「なぜ、何度も教えたのに記録の書き方がわからないのだろう」と疑問を呈した。ULが考えるスキルとCWが考えるそれに大きな差異があることが示唆された。今後、ULに対し、CWに記録の書き方に関する勉強会を企画し、ULの考えるCWのスキルアップを図ることをすすめ、その具体的内容について精査する必要がある。